

世界の人びとのための J I C A 基金活用事業
終了時活動報告書（2023 年度採択案件）

1. 業務の概要	
(1) 案件名	日本語学習者と地域をつなぐ、多文化共生社会づくりプロジェクト
(2) 実施団体名	一般社団法人 光 JS みらい
(3) 実施期間	2024 年 1 月 4 日～2024 年 12 月 27 日
(4) 実施国	日本
(5) 活動地域	東京都
(6) 活動概要 ①活動の背景： 今日の日本社会では、外国にルーツをもつ子どもたちが年々増加傾向にあり、国内の定住外国人は約 300 万人、日本語学習を必要としている児童生徒の数は約 6 万人にのぼります。自治体による日本語支援が充実していない地域では、日本語が十分に理解できない子どもたちは取り残されている現状があります。また、その子どもたちの家族においても、日本語の理解が不十分だったり日本の文化や慣習になじめなかったりして、地域で孤立してしまうケースも少なくありません。こうした外国人住民が感じる「言葉の壁」「生活の壁」は、根底に全て「意識の壁」があると考えます。 当法人は外国ルーツの子どもたちに日本語授業を提供し始めて半年が経ちますが、多様性・包摂性のある多文化共生社会の実現のためには、当事者である学習者の支援だけではなく受入側である地域住民の多文化理解促進が非常に重要であることを痛感しています。自治体による通訳サポートや日本語教室の開催など、表面的には外国人人材受入環境は各地域において整いつつあります。しかし、 <u>実際に同じ地域の住人同士の理解が進んでいかないかぎり「意識の壁」を払拭することはできず、真の多文化共生社会の構築は進んでいきません。</u> そこで、当法人は、日本語学習支援と並行して以下の取り組みを行っていくことで、「意識の壁」を解消することができると考えます。 ②活動の目標： 定住外国人と住民が共に文化（スポーツ、音楽）を体験する時間を共有し、互いの良さを認め合い・理解し合うきっかけをすることによって、言葉や国籍を超えて共生でき、誰も取り残さない社会の基盤を作ることに努力します。	

2. 業務実施結果

(1) 実施した内容

1. 外国人住民の社会参画支援

I 学習者と支援者の交流を目的としたフェスタ開催

2024 年 11 月 24 日(日)に、江戸川区小岩地区にて『BRAZIL QUEST in 小岩』を開催。延べ参加人数約 1,500 人。「ブラジル体感イベント」として、参加型ライブ・ショー・セミナー、スタンプラリー等を実施。ブラジルをはじめとした国際交流に興味がある人、地域住民が参加。運営スタッフは、ブラジルルーツの学生を中心としたボランティアスタッフ約 40 名が担った。

II 学習者と支援者の交流を目的としたイベント開催

I イベントにむけたキックオフイベントとして、ブラジル音楽交流イベント（5 月、8 月）と言語（ポルトガル語）交流イベント（3 月、6 月、9 月）を実施。延べ約 150 名参加。

・言語交流イベント

参加者の 1/3～1/2 がブラジル人、1/2～2/3 が日本人の割合で、ポルトガル語を介して文化交流をした。

・音楽交流

参加者の約 1/3 がブラジル人、約 2/3 が日本人の割合で、ブラジル音楽を好きな人も全く知らない人も一緒になって音楽で交流をした。

(2) 意識啓発を目的としたセミナー開催

2024 年 7 月から 10 月に計 4 回、『移住する子どもたちの言語とところ』というテーマで連続開催。講師は全員にブラジルにかかわりがあり、7 月に日本語専門家である福島青史先生（早稲田大学院教授）に基調講演をいただいた後、8 月～10 月に当事者（学生、社会人、母親兼経営者）のお立場で土橋フェルナンド諭氏・エバルド ヒラカワ タダシ氏・小橋川ユリ氏にご登壇いただいた。延べ約 320 名参加。参加者は、日本語教師や学校教員など現在外国ルーツの子どもたちをサポートする立場にある人や予定がある人、興味がある人など。国内外からの参加があった。

(2) 実施成果：

1. 当イベントを通して団体の活動に共感を示してくれた学生が 2 名、日本語学習ボランティアとしての活動に参加。継続して外国ルーツの子どもたちへの日本語指導を続けてくれている。
2. 当イベントを通してブラジルに興味をもった参加者 3 名から、次回のイベントにスタッフとして関わりたいと連絡があった。当イベントに参加したことで主体的に多文化共生に関われる場を見つけ、行動に移したとのこと。
3. ウェビナーを通じて当団体の活動に共感した 3 名の日本語講師が、ウェビナー後当団体で日本語教授を始めた。

（３）得られた教訓など：

自分たちの想いを言語化し伝える、やりたいことを形にすることの大切さ。
多少無理だと思っても、まずチャレンジする。

事業開始前のコンサルテーションが無ければ、『BRAZIL QUEST in 小岩』を開催するという発想にも至りませんでした。当団体の想いを言語化し、助言をいただく中で、当イベントを通して我々の想いを形にしたいと考えるようになりました。提案当初は、当時の団体規模等を考えると少々背伸びしているところがあったのですが、チャレンジすると決めてから協力者が急激に増え、結果として思い描いていた以上の規模でのイベント開催につながりました。大変貴重な機会をいただきました。

（４）今後の活動・フォローアップの方針：

来年度『BRAZIL QUEST in 小岩』開催にむけて、江戸川区議会議員や商店街、日本ブラジル中央協会などと企画を始めている。また、当イベントに関連して、異文化理解出前授業を近隣小中学校でも実施予定。ブラジル関連では、在名古屋ブラジル総領事館・在浜松ブラジル総領事館との共催で、ブラジル人学校での出前授業も開催予定。『BRAZIL QUEST in 小岩』に関連させた多文化共生・意識啓発事業を深化・拡充させながら、『BRAZIL QUEST in 小岩』を発展させていく。様々な立場の人との交わりを、多方面から実現させていく。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

予想以上に好意的に活動に関わってくださる方が多く驚いた。それだけ当テーマを課題と思い、行動に移したいと思っていた人がいたということだと思う。それぞれの立場・役割がある中で、それぞれの得意分野を活かしながら、出来ることを実現していけたらと思う。

(2) 活動の写真



BRAZIL QUEST in 小岩 スタッフ・出演者



参加者のメッセージボード



参加者が一緒になってサンバを踊る (BRAZIL QUEST in 小岩)

(3) JICA 基金活用事業を実施したことで団体の成長につながった点・良かった点

コンサルティングが定期的に行われたことで、活動を振り返る機会をいただきました。伴奏支援者の石井様に、当団体の活動を客観的に・俯瞰的に見てご意見いただけることは、非常に貴重でした。継続してコンサルティングを受けながら活動を実施することが出来る助成金は多くないと思うので、大変ありがたかったです。